

ラテンアメリカ諸国が米国の攻撃を共同非難、 暫定政府はマドゥロを支持

デルシー・ロドリゲス副大統領が暫定的に大統領代行を引き継ぎ、軍はマドゥロの釈放と帰還を要求している。

[ベネズエラ:ラテンアメリカ諸国が共同で米国の攻撃を非難、暫定政府はマドゥロを支持 - ベネズエラ分析](#)

[リカルド・ヴァズ](#)

ベネズエラナリシス 2026 年 1 月 4 日

カラカス、2025 年 1 月 4 日(venezuelanalysis.com)— ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコ、ウルグアイ、スペインの政府は日曜日に共同[声明](#)を発表し、「ベネズエラ領内での米国の一方的な行動」を拒否した。

「これらの行動は国際法の基本原則に反し、平和と地域の安全保障にとって非常に危険な前例を示している」と声明は述べている。

この共同声明は、1 月 3 日に行われたワシントンによるベネズエラ軍事施設への空爆やニコラス・マドゥロ大統領およびファーストレディ・シリア・フローレスの誘拐に対する地域的および世界的に広範な非難を受けてのものでした。

両国は対話の呼びかけを発表し、国連事務総長および加盟国に対し「緊張緩和と平和維持」への協力を促しました。

ドナルド・トランプ米大統領がベネズエラを「支配する」と主張したことに対し、署名国は「外国政府による天然資源の支配や奪取の試み」について懸念を示しました。しかし、宣言にはマドゥロについて言及も釈放も一切言及されていません。

米国の攻撃に対する外交的対応には、1 月 4 日(日)に開催されたラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)の緊急首脳会議も含まれていました。ベネズエラのイバン・ギル外相は、米国の行動を国際法および国連憲章の明白な違反として非難しました。

「米国は現職国家元首の個人免責を侵害した」とギルは電話会議で地域の指導者たちに語った。「大統領を誘拐することは、国民の主権を奪うことだ。」

同外相は CELAC 加盟国に対し「一歩前進するよう」促し、沈黙はワシントンの一方的な行為を受け入れることになるかと警告しました。

ベネズエラの同盟国ロシアや中国を含む複数の国が、米軍の作戦を強く非難しています。日曜日の声明で、北京はワシントンを「国際法の明らかな違反」として非難し、マドゥロとフローレスの「即時釈放」を求めました。

国連安全保障理事会は月曜日に緊急会合を開く予定です。

一方、ベネズエラ副大統領で現暫定大統領のデルシー・ロドリゲスは、マドゥロの釈放要求を改めて表明し、「いかなる帝国にも屈しない」と誓いました。ロドリゲスは土曜午後に記者会見を開き、「外部の混乱状態」を確立する布告の制定を確認しました。この文書は、軍を動員したり市民の自由を制限したりする権限など、行政府に 90 日間の延長可能な追加手段を与えています。

3 日夜、ベネズエラ最高裁判所はマドゥロの誘拐と米国への送還は一時的な不在にあたると判断し、ロドリゲスが暫定的に大統領職を引き継ぐことを命じました。

同夜、ニューヨークでマドゥロが飛行機から連れ出される映像が公開されました。その後、彼は DEA の施設に連行され、フローレスと共にブルックリンのメトロポリタン拘置センターに移送されました。彼は声明を出さなかったが、DEA の職員に挨拶し、写真では明るくピースサインをし、親指を立てて楽しそうに見せました。

ベネズエラ大統領は 3 日に、ニューヨーク地方裁判所で起訴され、「麻薬テロの共謀」や「機関銃所持」などの容疑が問われた。公聴会は月曜日に予定されていると報じられています。

一方、ベネズエラのボリバル国防軍(FANB)も日曜日に声明を発表し、マドゥロとフローレスの「臆病な誘拐」を拒否し、「帝国主義的侵略に立ち向かう」使命を改めて表明しました。

FANB はロドリゲスが暫定的に大統領に就任することを支持し、「平和と内政秩序」を維持する準備を続けると誓いました。

国防省は米国の攻撃による被害や死傷者の報告をまだ発表していないが、日曜日の声明はマドゥロの警護隊員に対する「冷酷な殺害」を非難しました。未確認の報告では 80 人の死亡者とされています。

ベネズエラの大衆運動や政党は日曜日、2 日連続で街頭に繰り出し、カラカスや他の都市でデモや集会を開催しました。公共交通機関と小売業は土曜日よりもはるかに機能していました。

アメリカの攻撃は週末に多くの国際的な連帯デモを引き起こしました。ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アメリカの数十都市に群衆が集まりました。日曜日にはマドゥロが収容されているブルックリンの拘置所の前でデモが呼びかけられました。

1 月 3 日の作戦は、米カリブ海史上最大の軍事増強の直後に行われたもので、トランプ大統領は以前、麻薬を運んだとされる小型船に対して攻撃を命じており、100 人以上の民間人が死亡しました。米大統領は繰り返し、軍事的脅威を利用して米国企業に有利な石油取引を引き出す意向を示しています。

4 日の[インタビュー](#)で、マルコ・ルビオ国務長官はカラカスの暫定政府に対し「正しい決断を下す」よう警告し、米国は石油輸出を阻止する海上封鎖を含む「レバレッジ」メカニズムを保持していると確認しました。

米軍事攻撃に各地で反対運動

カラカス、2026 年 1 月 3 日(venezuelanalysis.com)— ベネズエラの民衆運動や国際的な連帯組織が、米国の軍事攻撃とニコラス・マドゥロ大統領の拉致を非難するため街頭に繰り出しました。

1 月 3 日未明の爆弾攻撃と特殊作戦による襲撃を受け、マドゥーロ政権を支持する人々は首都カラカスのミラフローレス（大統領官邸）近くに集結し始めました。デモは他の多くのベネズエラの都市でも報告されています。

「自由で革命的なベネズエラ万歳」と草の根運動の指導者マリエラ・マチャドさんはカラカスのデモで「国際機関は共犯者でいるのをやめ、立ち上がらなければならない。なぜなら我々の国民が虐殺されているからだ。」と記者団に語りました。

彼女はさらに「アメリカ政府は世界の警察ではない」と述べ、ベネズエラ大統領の安全な帰還を要求しました。

ベネズエラのディオスダド・カベジョ内相とウラジミール・パドリーノ・ロペス国防相は早朝に声明を発表し、国際社会に米国の行動に対する立場を表明し、国民を動員するよう呼びかけました。

国際連帯組織もロンドン、ニューヨーク、ラテンアメリカのいくつかの首都を含む数十都市で緊急集会を開催しました。

米軍は現地時間午前 2 時に攻撃を開始し、首都および周辺地域の複数のベネズエラ軍事施設に対してミサイルを発射しました。ソーシャルメディアの利用者は、カラカスの主要な軍事施設であるフエルテ・ティウナから火災や大きな煙の柱が立ち上る様子を伝えています。ラ・グアイラ港、ミランダ州イグロートの空軍基地、東カラカスのエル・ハティーヨのレーダー施設が攻撃対象とされています。ベネズエラ当局は被害や死傷者に関する情報を公開していません。

最初の攻撃から数時間後、ドナルド・トランプ米大統領は特殊作戦部隊による急襲作戦でマドゥロ氏と妻のシリア・フローレス氏が誘拐され、二人は「国外に空輸された」と**発表**しました。二人は米艦「USS イオージマ」に乗せられたと報じられている。

米国のパム・ボンディ司法長官は、マドゥロ大統領とフローレスさんがニューヨーク地方裁判所で「麻薬テロ共謀」などの容疑で**起訴**されたと述べた。近年、米国当局者は繰り返しマドゥロや他のベネズエラ高官が米国に麻薬を大量に流したと非難していました。しかし、彼らは裁判で検証された証拠を提示しておらず、国連や DEA の**報告書**はベネズエラが世界の麻薬取引においてわずかの関与しかないことを示しています。

3 日の**記者会見**で、トランプ氏は「安全で適切かつ慎重な移行」の条件が整うまで、米国がベネズエラを「運営」と述べました。さらに、マルコ・ルビオ国務長官や他の関係者が「国を運営する」役割を担うことになるかと付け加えました。

米大統領はベネズエラの石油資源はアメリカのものだとする主張を繰り返し、石油国有化や麻薬取引の疑いによる損害についてベネズエラが米国に「補償」しなければならないと脅しました。トランプはさらに、ルビオがベネズエラ副大統領デルシー・ロドリゲスと会談を行い、彼女が宣誓し、米国の指示に従うことを誓ったと主張したと述べた。

トランプ氏は、南米の国でマリア・コリーナ・マチャド氏が権力を握るという考えを否定し、極右指導者は現地での支持を得ていないと断言しました。

ワシントンの軍事攻撃と特殊部隊による襲撃は、カラカスに対する政権交代の脅しが数か月にわたる**準備**と激化した後のものでした。米軍はカリブ海で数十年ぶりの大規模な軍事展開を行い、麻薬取引の疑いをかけられた小型船に対して数十件の爆破攻撃も行いました。

この軍事作戦はラテンアメリカをはじめとする国際的な非難を呼び起こしました。